

「人間的な連帯を」

檀原で「蟹工船」ブーム分析 市民勉強会

社会的な話題から気になるテーマを選び、意見を交換する「第12回平和に関する市民勉強会」がこのほど、檀原市大久保町の県社会福祉総合センターで行われた。

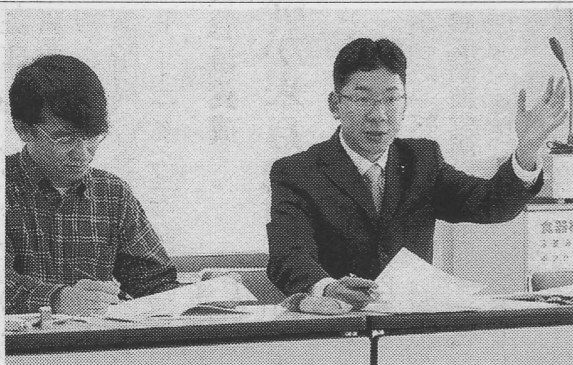
「蟹工船」を読む」をテーマに、宮本次郎県議(共産)が問題提起者となつて、約80年前に小説「蟹工船」が発表された時代と現在との共通点や相違点について語り、日本社会の現状などを参加者らと意見交換した。

これまでは年間約5000部の売れ行きだったのが、今年に入つて約40万部(1〜6月)も売れたという「蟹工船」ブームについて、読みやすい漫画版の後押しがあるとしながらも、背景には派遣労働者の問題をはじめとする格差社会や、従来の社会構造を問題視すること

宮本県議は「今(「蟹工船」を)読んだ世代が大人になり、人間的な連帯の重要性、自国の労働や農業などを大切にする国をつくれば(日本の)将来は明るい」と語った。

同勉強会は、特定の政党・団体とは無関係で、毎回テーマを決めて開かれていた。主催者は檀原市の会葬員浜田敏正さん(45)。

問い合わせ



「蟹工船」を基に、日本の社会構造について語る宮本県議(右)＝檀原市で

せは、0800(3776
9)1879、ホームペ
ーhttp://www4.
kcn.ne.jp/~tm-
hana/>。